

# 日なたの畑(二)

## 及川ふみ

八

お正月の休みが終つて、第三學期の始業の日が来た。しばらく會はない幼児たちの顔を見るのも楽しみだし、山の上の畑の作物の様子も見たくもるので出かけてきた。

キャベツ、えんどうも一本の損じもなく小さい乍らも生々としてゐるので安心した。

廣い開墾地にはやつと前記のキャベツ、えんどうの二種類が植ゑられてゐるだけである。あいてゐる場所にはこれからジャガイモ、南京豆、ツルナ、南瓜、などの作物の豫定が立つた。

この三學期の寒い間の、大人と幼児の共同農耕は先づジャガイモ畑の地ごしらへである。

石や瓦のカケラの片は大體一通りはすんだわけであるが雨が降つたり、少しでも掘つて土を動かすとたちまち石ころが出てくる。土を掘つて柔かくしながら肥料を入れ

ては土を柔くする。石ころを拾ふ。幾度かこの仕事を繰り返した事である。

三月二十五日本校の卒業式の日、卒業生を送り出した後、約三貫目ばかりのジャガイモの種イモを私共保姆だけで植ゑ付けた。こんなに植ゑ付けをするに植付月日を記しておかなくても忘れやうにも忘れられない氣がした。すつかり地ごしらへを手傳つてもらつた保育科の生徒たちも巢立つていった。

### 南京豆の植付

四月になつて一次の作物、南京豆の植付の準備にとりかゝる。

今まで幼稚園で豆類を蒔くといつても鳥にとられてしまふ苦い経験があるので、去年の秋のえんどう豆も直時にはしなかつたが、南京豆など尙更のことである。學校の園藝場の畑に小さい鉢に一粒づゝ入れて芽の出るのを待つことにした。ところがこゝ

にも鳥の眼がとゞいて約半數は荒された。仕方なしに大急ぎで補ひをつけて、今度のは小さい鉢は温室の中に入れて植ゑつけの後れるのを少しでもとりかへす爲に急いだ。

小鉢に入れた豆が芽を出し、根が鉢の底まで廻るまでは南京豆の地ごしらへである。三尺おきに一つづゝ一尺あまりの穴を掘つた。この穴を六十掘つた。この穴に肥料を入れ、その上に柔い土をのせ或る時は灰を入れた。植ゑ付數、六十株の南京豆の爲の地ごしらへである。植ゑる場所を全部こんなに耕すのは容易でなく植ゑ付に間に合はないので植ゑる迄まはり丈さしあたり用意したわけである。豆の芽が十センチ位のびた時に鉢から地へおろした。移植の出来ないものを植ゑうつす時には小鉢に水をやつて土をかためてからトン／＼數回鉢のまわりをたゞいて掌の上に倒にすると鉢の形のまゝの土がついてそのまゝ靜かに土におろすのである。

四月五月と暖い日が續くと、キャベツの生育も目立て來た。それと同時に蟲の害もなかなか油断が出来ない。うねづゝ各組

の分擔をきめて蟲取りを充分にする事にし  
た。青蟲、夜盜蟲など毎日／＼取つてもど  
りつくせない。五月に入るとどの葉も急に  
まき出した。かつて幼稚園の丸花壇に十株  
位キヤベツを植ゑた事があつたが、一つも  
葉が巻かないで、葉牡丹の様になつた。こ  
んな経験のもち主であるから七十近くのも  
のがほとんどまるく葉が巻くので不思議な  
様な氣もした。ほんとに夢の様にうれしく  
なつた。土もよい、日當りもよい、苗もよ  
い、手入もよい(これはどうですか)とにか  
く三拍子揃つた結果であらう。こう順調に  
生育して來ると、蟲取りは尙更おこたつて  
はならない。東京邊の幼児はキヤベツと云  
へば臺所にある丸いかたまりとしが考へ  
ない。この偉大なる葉の中央にあのキヤベ  
ツがついてゐるのかと始めて眼を見はつた  
様であつた。

#### キヤベツの收穫

かたく巻いたキヤベツを先づ一つとつて  
海の組の幼児たちにお辨當の時のお汁を作  
つて食べさせた。鹽で味をつけお醬油はほ  
んの色つけ位に入れた簡単なお汁であつた  
がとにかく幼児たちは喜んでくれた。三杯

もおかはりして大喜びでたべてくれた。海  
の組の幼児たちに試食してもらつて喜ばれ  
たキヤベツ汁は次々の全園の幼児たちの晝  
食のお汁として賑かになつた。幼児たち  
を喜ばせた後、この三月卒業した保育實  
習科の生徒さん達の勞も報いたい。六月二  
十五日 皇太后陛下の御誕辰祝賀式は丁度  
日曜日と重つた。園藝の大岩先生、名和さ  
ん方にも御出席願ふ事として在京の卒業生  
に案内を出し、キヤベツ料理をすゝめる事  
にした。調味料は各自少量づゝ持參する事  
にして、とにかくキヤベツの味噌汁、鹽も  
み、いんげんの煮付など三種類のお皿盛り  
が出来上つた。お料理の味は味そのむより

## 人形芝居雜記

戦局は如何に嚴しからうとも、こども達  
の初春を待つ心には些かの曇りもなく明る  
く輝かしい。暮から新春にかけて専ら家庭  
の子として戦時下許される限りの楽しい和  
かな毎日を送つた彼等を叔、私はどんな風

も自分たちが丹精したものとといふので何倍  
かの美味を添へたのである。歸りには各自  
キヤベツのお土産をもたせた。大小輕重い  
る／＼あつたが收穫の時一つ一つ目方をか  
けてその重さを計つたのであつたが八百匁  
位が最高の出来であつた。専門家の一個二  
貫目もあるものなどに較べれば問題にもな  
らないわけであるがとにかく始めてキヤベ  
ツを作つた素人としてはこれで一寸満足し  
た。又七十株植ゑ付けたキヤベツの中一株  
だけ始めに枯れてしまひ、三株ばかりが葉  
牡丹の様になつた以外はみんな、とにかく  
キヤベツらしく丸くなつた丈けでもうれし  
いことであつた。

## 安村 ふさ

に迎へようか。どんな風にして喜ばせよう  
か。かるたや双六を作つて遊ばせるのもお  
正月らしく面白いが、子供達をてつとりば  
やく喜ばせたい私の氣持は、先づ人形芝居  
で、と思ひつく。こども達は人形芝居がと